

公立大学法人島根県立大学の平成27年度に係る業務実績に関する評価のポイント

1 中期目標項目別評価の概要

中期目標項目	評 定 平 均 値	AA	A	B	C	D
		特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	概ね順調	やや遅れている	大幅な改善が必要
		~4.3	4.2~3.5	3.4~2.7	2.6~1.9	1.8~
I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.00		A			
II 大学の教育研究等の質の向上	5段階による評価でなく、進捗状況・成果を総合的に評価する。					
III 自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.05		A			
IV 評価制度の充実及び情報公開の推進	4.00		A			
V その他業務運営に関する重要事項	4.00		A			

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評定し、中期目標の大項目ごとに平均値を算出したもの。

評定：評点平均値に応じて、AA、A、B、C、Dの5段階で評価。

2. 中期目標項目別評価内容

I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

評価	A	順調に進んでいる	評価平均 4.00
評価にあたって考慮した事項	<p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化に的確に対応するため、浜田キャンパスの将来につながる魅力向上策について、将来構想検討委員会を立ち上げ学部教育のあり方、地域連携機能の強化などにつき検討を行った。(No.1-1) <p>○出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に探求できる研究能力を備え、地域医療を牽引する優れた看護実践者を育成することを目的とした大学院看護学研究科について、平成28年4月の開設に向け準備を進めた。(No.1-2) <p>○松江キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスの4年制化につき、県の方針決定(①3学科全ての4年制大学化、②健康栄養学科の出雲キャンパス移転、③短期大学部の一部学科の存置)をふまえ、平成30年4月の設置に向けて、申請準備、出雲キャンパス新棟整備にかかる設計、教員確保など着実に準備を進めた。(No.1-3) 		
特に顕著な成果が見られた事項	<p>○出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスへの大学院看護学研究科の設置につき、平成27年8月31日付けで文部科学省より設置認可を受け、平成28年4月の開設に至った。定員を充足する5名の入学者を確保し、島根県の地域医療の質向上のための人材育成に努めている。(No.1-2) 		
今後の取り組みが期待される事項	<p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田キャンパスの将来構想(魅力向上策)について、目標とした年度中の取りまとめには至らなかった。浜田キャンパスでの検討の後は、法人にて検討することとされているが、社会情勢の変化に対応し、大学の魅力をより向上させる検討が為されることを期待する。(No.1-1) 		

II 大学の教育研究等の質の向上

項目	計画の進捗状況及び成果
<p>高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学</p>	<p>特筆すべき点・注目される点</p> <p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合政策学部は一般入試志願倍率が 8.39 倍（公立大学社会科学系学部 33 校中 9 位）となり、前年度の 8.12 倍に続き高い倍率を維持している。（No.2） ・キャリアセンターによる学内企業説明会や就職活動バスの運行、模擬面接の実施などきめ細やかな支援によって就職率が 99.1% となり、過去最高の 99.5% に次ぐ成果をあげた。また、昨年度の 95.6% から大幅に増加した。（No.35） <p>○出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学化後初めての卒業生を輩出するとともに、就職率 100% を達成した。（No.35） <p>○松江キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生を対象とした模擬面接の実施、ハローワーク・ジョブカフェの学内出張相談の実施など就職指導を徹底したことにより、就職率は 98.5% となり昨年度の 97.4% を上回り、平成 19 年の法人化による短大部設置以降、最高の数値となった。（No.35）
	<p>遅れている点・課題がある点</p> <p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDセンターが設置され、授業の内容及び方法の改善を図るために組織的活動が行われているが、キャンパスによって取り組みの進捗に差が生じている。浜田キャンパスでは、授業アンケートの回答率が低いが、学生の授業評価を的確に把握し、授業の改善に活用するため、回答率の向上を図りたい。また、授業公開を定着させるなど、組織的な取り組みに期待する。（No.25～No.27） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>FD・・・ファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development） 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称</p> </div>

地域に根ざし、地域に貢献する大学

特筆すべき点・注目される点

○全学

- ・平成25年度に採択を受けた「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を順調に実施した。（No.46）
- ・地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る「9月連携会議」を分科会形式で開催し、島根県内の現状・課題について大学と自治体等関係団体で意見交換を行い、共同研究のテーマ設定につなげた。（No.46）
- ・遠隔地講義システムを使用し、キャンパス間で公開講座を受講し合える環境を整えたことで、遠隔講義システムで51名の受講があり、より地域に学びの機会を提供することができた。（No.46）

○浜田キャンパス

- ・浜田市弥栄町の集落で地域の方と農作業を行う「県大農園すこっぷ」や、地域の子どもの合宿やクリスマス会を開催する「BBSサークル」などの活動や、地域資源を生かしたビジネスプランを競う「浜田を元気にするアイデアコンテスト」での提案など、学生が主体となった積極的な地域貢献活動が行われた。（No.41）
- ・県立大学独自の制度である「しまね地域マイスター」認定制度を開始し、「しまね地域共生学入門」の開講により、島根の地域課題に取り組む実践力を持った人材育成を進めた。（No.46）

○出雲キャンパス

- ・島根県の看護職者の資質向上に向け、認定看護師（緩和ケア）教育課程の設置認定を受け、平成28年度の開設に向けた学生募集においては当初予定10名に対し、20名の入学者を確保した。（No.12）
- ・出雲キャンパス支援ネットワークの協力を得て、出雲市駅前にサテライトキャンパスを設置し、県民のニーズの対応した公開講座、健康づくり講座（全7回）を開催して、77名の参加を得た。（No.58）

○松江キャンパス

- ・社会人学び直しのための「履修証明プログラム」開講に向け、平成28年6月の開講が可能となる準備を行った。3分野8コースのプログラムを用意し、自宅のパソコンで受講できる「e-ラーニング授業」を組み合わせるなど、社会人が無理なく履修できる制度設計を図った。（No.46）
- ・松江市総合戦略（地方創生）の一環として、松江市と連携してボランティア活動を活発に行ったことから、ボランティアサークル”Volcano”が平成27年度島根県「県民いきいき奨励賞（ユース部門）」に表彰された。（No.54）

	遅れている点・課題がある点	<p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田キャンパスの入学者に占める県内者の割合はオープンキャンパス、高校訪問などの取り組み強化などにより、今年度は28.8%と昨年の23.7%より5.1%上昇したが、一昨年以前の水準には回復していない。大学の特徴など一層の周知に努めるとともに、県内高校生や地域のニーズをつかみ、進学先として魅力のある大学づくりに取り組まれない。 ・県内就職については、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」により、平成31年度までに県内高等教育機関（島根大学、島根県立大学、松江高専）で10%増の目標を掲げて取り組んでいる。浜田キャンパスの県内就職率は25.2%であり、そのうち、県内出身者の県内就職率は57.8%と昨年より8.9%の上昇がみられるが、県内企業の魅力に触れるインターンシップ参加者の増加を図るなど一層の取り組みに期待する。
北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学	特筆すべき点・注目される点	<p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県立大学と留学先の双方の大学の学位を取得できるダブルディグリー制度を利用する韓国・蔚山^{ウルサン}大学への学生派遣は、昨年に引き続き2名の学生を派遣している。また、1年生の派遣候補生に対して語学能力向上のための韓国語特別演習を継続して行っており、制度の定着が評価できる。(No.62) ・平成26年に開設した全学運営組織「国際交流センター」において、新たに海外5大学と交流協定を結び、国際交流の環境を整えた。外国人留学生の受け入れは、年度計画で短期日本語日本文化研修等の参加者20名以上の受け入れを目標にしているのに対し22名を受け入れたほか、短期留学生を50名受け入れ、学部生との交流を通じて、留学への動機付けを行った。(No.62)

Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

評価	A	順調に進んでいる	評価平均 4.05
評価にあたって考慮した事項	<p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業について、浜田キャンパスにて研修会を開催したほか、出雲キャンパスでは科研費アドバイザーを配置するなど外部資金獲得の取り組みに力をいれた。(No.75) ・大学施設の学外利用について、3キャンパス統一の要領を作成し、申請書様式の簡素化を図ったほか、利用料金の設定見直しを行った。(No.77) 		
特に顕著な成果が見られた事項	<p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高度な学術情報ネットワークを整備し、教育環境の向上を実現するため、外部インターネット回線を大容量・高付加価値サービスであるSINETに切り替えるとともに、機関リポジトリUSAGIを、自前サーバから国立情報学研究所運営のJaiproCloudに移行した。これらの情報設備の見直しなどにより、増嵩する経費の節約を図った。(No.80-2) 		

Ⅳ 評価制度の充実及び情報公開の推進

評価	A	順調に進んでいる	評価平均 4.00
評価にあたって考慮した事項	<p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた大学運営を行うため平成20年度に開始した学長定例会見であるが、平成27年度も継続して毎月1回実施した。(No.86) ・大学広報誌「オロリン」第4号を6月に、第5号を2月に刊行し、特徴ある活動をクローズアップしながら、大学の最新情報を公開した。(No.86) 		

V その他業務運営に関する重要事項

評 価	A	順調に進んでいる	評定平均 4.00
評価にあたって考慮した事項	<p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の掲載企画の見直しを図ったほか、法人ホームページのトップページをより見やすいように変更するなど、既存の広報媒体の見直しを図った。(No.87-3) ・平成26年度より実施しているテレビCMの放映を山陽、瀬戸内地域向け生徒募集を積極的に行った。(No.87-4) ・施設管理については、定期点検を行い機器の異常の早期発見に努め、可能な限り初期段階の修理を行うことで、機器の停止等の故障を未然に防いでいる。(No.90) <p>○浜田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会組織と協力し、卒業生による講演、就活生との交流など卒業生と在学生の交流を促進した。(No.88-2) <p>○出雲キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスでは、キャンパスモニターの近隣地域モニターを昨年度より1地区増やし計5地区とするなど、広聴活動に積極的に取り組んだ。(No.89) ・隠岐の島町でタウンミーティングを開催し、現地医療職や高校生一般参加者より広く意見を聴取した。(No.89) <p>○松江キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会主催の交流バスツアーや卒業生を対象としたホームカミングデーを実施し、同窓会組織との交流を図った。(No.88-4) 		

3. 平成26年度実績に係る今後の取組が期待される事項

平成26年度実績評価で遅れている点とされた事項

項 目	概 要
キャリアセンターにて教員の情報交換・交流機会を設ける。(年1回)	<p>年度当初に、全学運営組織を所管する事務局関係課室長あて下記について周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、全学運営組織は全学で取り組むテーマに設定すること。 ・年1回以上、それぞれの全学運営組織に所属する委員全員で顔をあわせ、協議、研修等を実施する。 ・年1回以上、各センター長が学長に面談し、取り組みの成果や今後の取り組みテーマ等について協議する。 <p>この結果、平成27年度は全ての全学運営組織で委員全員が顔を合わせた協議、研修会が実施された。</p>
『北東アジア創成シリーズ』第3, 4巻の刊行、5巻の執筆着手 (No. 47-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年11月12日(木)に第4回編集委員会を開催し、各執筆者の進捗状況、今後の見通しを確認、刊行計画を以下のとおり修正した。今後、必要に応じて編集委員会を開き、執筆状況の確認をした上で、新たな刊行計画を厳守することを申し合わせた。 <p>第3巻：平成28年秋脱稿、年内に刊行予定。</p> <p>第4巻、第5巻、第6巻：平成28年度から平成29年度の間、脱稿したものから順次刊行予定。</p> <p>第7巻(最終巻)：平成30年3月脱稿予定。平成30年度内にシリーズ完成予定。</p>